

議会報告 さかい通信 2018 春号

新年度予算に組み込まれた主な事業

平成30年度の予算案は、約8,902億円(一般会計、特別会計の合計)。約一ヶ月間の審議を経て、(様々な議論の末)賛成多数で可決されました。(詳細は別途発行される「市議会だより」等をご参照下さい。)

今回の新年度予算には、これまでに議会質問等、議会活動を通じて行ってきた政策提案、各種要望活動が実を結び、多くの政策が実施・拡充されることとなりました。主な内容は以下の通りです。



総務局	<ul style="list-style-type: none"> ▶(災害用)マンホールトイレが20か所、備蓄倉庫が33か所、当に設置拡充されるほか、災害時に必要な資機材の整備が進みます。 ▶避難所運営委員会の活動支援費が拡充されます。
総合政策局	▶東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた都市ボランティアの育成が本格化するとともに、障害者アスリートによる学校訪問などパラスポーツが推進されます。
市民局	▶JR主要駅(H30:千葉、稲毛、H31:蘇我、海浜幕張)周辺に防犯カメラが設置されるほか、町内会への設置補助も拡充されます。
保健福祉局	<ul style="list-style-type: none"> ▶「在宅医療・介護連携支援センター」が新設されるほか、あんしんケアセンター、生活支援コーディネーター等の専門人材が増員されます。 ▶認知症など、徘徊高齢者の見守り策として新たなSOSシステムが導入されます。
こども未来局	<ul style="list-style-type: none"> ▶幼児教育無償化に向け、保護者負担の軽減が図られます。 ▶保育士の給与等、処遇改善が進められるとともに、一時預かりや病児・病後児保育など、多様な保育ニーズへの対応が拡充されます。
環境局	▶航空機騒音対策(常時監視)が引き続き行われます。
経済農政局	▶国際会議の誘致などMICEの取り組みが強化されるほか、訪日外国人客の誘客を目的としたファムトリップの開催など海外プロモーションが強化されます。
都市局	<ul style="list-style-type: none"> ▶JR蘇我駅東口周辺の市街地再開発に向けた調査及び予備設計が行われます。 ▶木造住宅の耐震改修のための助成率が引き上げられます。 ▶蘇我スポーツ公園に日よけ施設が設置されます。
建設局	<ul style="list-style-type: none"> ▶南町2・3丁目(蘇我駅)、宮崎町など、重点地区の雨水対策が強化されます。 ▶通学路のカラー舗装が進められるほか、西雷踏切(浜野町)への歩道整備が行われます。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ▶小学校就学援助(入学準備金)の支給時期が入学後から入学前に前倒しされます。 ▶多様性を育む、オリンピック・パラリンピック教育が拡充されます。 ▶いじめや不登校に対応するスクールカウンセラーが増員されます。 ▶特別支援教育指導員、介助員が増員されます。 ▶地域ぐるみで子どもを育てる体制整備として、学校支援地域本部が新たに10校に設置されます。

稲毛海浜公園がリニューアル!

5月にも一部オープン

千葉市「海辺のグランドデザイン」に基づく取り組み

千葉市では、三つの人工海浜(幕張の浜、検見川の浜、いなげの浜)、及び千葉中央港地区において、海辺の活用、魅力形成が進められております。

特に、私自身『三つの人工海浜(幕張、稲毛、検見川)は千葉市が誇る観光資源であり、民間活力を生かし、早期にグランドデザインの策定に着手すべきである』と訴えたのが、平成25年の第一回定例会でありました。その後、同年に行われた市長選を経た熊谷市長が、第二回定例会において「海辺のグランドデザイン」の策定を表明。平成28年の3月に策定されました。

今回の稲毛海浜公園リニューアルは、この「海辺のグランドデザイン」に基づくもので、「都市型ビーチ」として平成32年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、主要施設をリニューアルオープンさせる計画となっております。キャンプなどを体験できるグランピング施設や温浴施設、バーベキュー場が新設されるほか、稲毛記念館が宿泊施設として改修されます。また、プール施設も今夏の営業終了後に改修を始め、海を望めるプールとして明年夏に新装オープンとなる予定です。



全体鳥瞰図(イメージ)



グランピング施設(イメージ)

民間活力導入で財政効果を見込む

昨年8月の公募を受け、民間事業者と基本協定を締結。同事業体の提案内容に沿って事業が進められます。前述の施設整備費、約36億円は事業者側が負担し、砂浜やトイレの改修、その他インフラ整備などは千葉市が負担します。(平成32年度までに最大24億8千万円)

一方で、こうした民間資本を導入し管理運営形態を転換させることにより、20年にわたる事業期間で市の維持管理委託費負担額が約38億円削減されるほか、市に支払われる公園使用料が約10億円増えることから、計約48億円の財政効果が見込まれます。

千葉市の新たな魅力、にぎわいの創出に期待したいと思います。



温浴施設、マルシェ(イメージ)

市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員

酒井 伸二

〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14

Tel/Fax.043-268-7120

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai_chiba@ko-mail.jp



平成30年 第1回 定例会における代表質疑より



■ 質問の概要

■ 市政運営の基本姿勢

1. 新年度予算案について
2. 財政運営について

- (1) 新たな財政健全化プランについて
- (2) 民間活力の活用について

3. 節目の佳節への対応について

- (1) 東京オリンピック・パラリンピックについて
- (2) 市制100周年について

4. 次期「基本計画」について

5. ソーシャル・キャピタルの視点に基づく地域づくりについて

- 総務行政：国土強靱化地域計画について
- 市民行政：防犯カメラの設置推進について
- 保健福祉行政：地域包括ケアシステムについて
- 子ども未来行政：里親制度について
- 環境行政：食品ロスの推進について
- 経済行政：企業立地の推進について
- 都市行政：バリアフリー化の推進について
- 建設行政：緊急輸送道路の耐震対策について
- 消防行政：感震ブレーカーの設置支援について
- 教育行政：SNSを活用した相談窓口について、プログラミング教育の推進について



第1回定例会で
代表質疑に登壇！

去る2月28日、千葉市議会「平成30年 第一回定例会」において、公明党千葉市議会議員団を代表しての質疑に立ちました。ぜひご覧ください！

■ アドレスは以下の通り。

www.chiba-city.stream.jfit.co.jp

議員名「酒井伸二」で検索ください！

■ 市政としてSDGsへの参画を！

千葉市の次期基本計画の計画期間は2022年から2031年。2025年問題など、本格的な人口減少、超高齢化の時代を迎えます。検討にあたっては、昨今あらゆる分野で語られるサステナビリティ、いわゆる持続可能性が問われるだけに、より普遍的な思考と指標が重要であります。

指標と言えば、近年国際的にも取り組みが進められているSDGsは、その最も標準的な物差しと言えます。掲げられた17の目標、169のターゲットは、貧困や格差、健康と福祉、気候変動に防災、質の高い教育など、私たちの自治体運営にも密接な関係にあるものが多分に含まれており、決して国際協力の枠にとどめるといったレベルのものではありません。今見えるもののみを追うといった傾向に陥りがちな政治の世界にあって、グローバルかつ普遍的、長期的視野にたった目標と現状をつなぎ合わせていく作業は極めて有意義であり、国政においても市政においても、その全体の政策に横串を刺すようなものであり、底流とすべきものであります。

国際都市・千葉としてSDGsに積極的に参画していくべきと訴えたところ、市長からは「SDGsの理念は、本市が進めるまちづくりの方向性と底流を同じくするものと認識している。また、政策形成に資するとともに、多様な主体との連携の進化も期待できることから、次期基本計画に係る検討の中で、今後のSDGsの活用のあり方について検討していく。」との答弁がありました。今後とも、継続的に訴えかけをして参りたいと思います。



■ ソーシャル・キャピタルの醸成を！

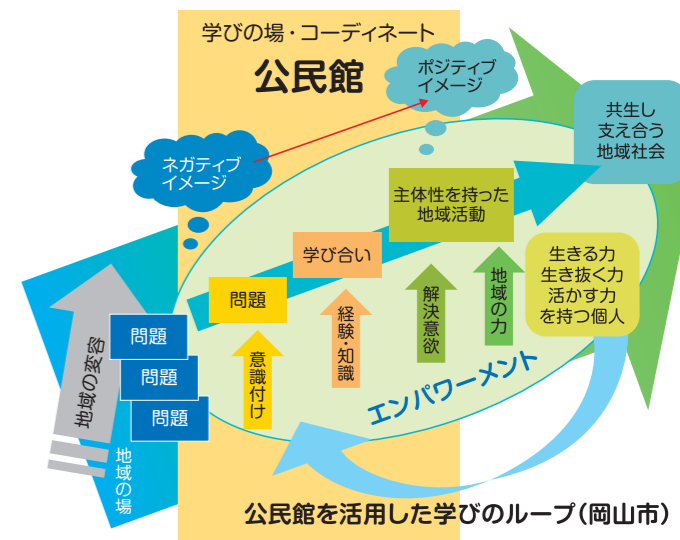
国立社会保障・人口問題研究所が1月に発表した世帯数の将来推計によれば、2040年には単身世帯が全世帯の4割に達するとともに、単身世帯に占める65歳以上の割合は45%に達すると予測されております。「共生」の価値観の幅広い共有とともに、「支え合いの地域づくり、人づくりが」が急がれるべきであります。

さて近年、この「地域力」を向上させるための概念として、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)に注目が集まっております。人々の協調的行動を促す社会的ネットワークや相互扶助、信頼関係などを指すもので、例えば、内閣府の調査によれば「ソーシャル・キャピタルが豊かな地域ほど、失業率や犯罪率は低く、出生率は高い。また平均寿命も長い。」と分析されております。少子高齢化、単身世帯の急増が地域のつながりを弱体化させ、住民を孤立させる方向に作用しがちであるのに対し、これらを最小限に抑制すべく、日頃からの人と人との交流、つながりをつむぎ出す、ソーシャル・キャピタルの醸成・強化が必要であります。

ひるがえって元来、戦後の荒廃期に地域再生の拠点となったのが公民館でありました。岡山市では、公民館を「共生のまちづくりの拠点」と位置づけ、ESD(持続可能な開発のための教育)に取り組んでおります。様々な地域課題と向き合う学びを通して人々やコミュニティのエンパワーメントを図り、ひいては持続可能な地域づくりにつなげていく、正にソーシャル・キャピタル醸成のビジネスモデルとも言える取り組みであります。

一層の地域力や住民の主体的な関与が求められる今、改めて原点回帰として、47もある千葉市の公民館の更なる活用を求めました。

市長からは「公民館は、地域が抱える課題の解決に向け、社会教育施設としての役割を一層主体的に果たしていく必要があることから、新年度には(新たに)ESDの一環として、福祉や環境、消費者教育等の講座を行うほか、教育委員会が中心となり、持続可能な社会づくりの担い手育成に資する多用で効果的な事業を実施していく。」との答弁がありました。新年度以降、公民館事業においてより一層の充実が果たされるよう、注視していきたいと思っております。



編集後記 東日本大震災から7年が経ちました。震災当時、暴動や略奪が頻発してもおかしくない極限の状況下で、互いに支え合い、助け合って苦難に耐えた被災者らの姿は、常日頃から培われた「ソーシャル・キャピタル」の力が、いざという時に発揮されるという尊い教訓を残したとされております。

2020東京オリンピック・パラリンピックまであと2年！

都市ボランティアの
募集が始まります
(本年夏ごろ)



千葉県及び千葉市では、大会組織委員会が募集する「大会ボランティア」(競技会場、選手村等における大会運営の為にボランティア)とは別に、都市ボランティアを本年夏ごろから募集致します。

県が作成した取組検討調査報告書を基に試算すると、海浜幕張駅をはじめ、主要駅(千葉駅や蘇我駅周辺)において一日あたり約2,000名が必要とも言われております。

また、「その他ボランティア」(美化活動やパラスポーツ応援団など)についても、今後検討が行われる予定です。ちなみに、先行募集となった「都市ボランティアリーダー」については、定員100名のところ約450名の方からの応募がありました。皆さまも応募してみませんか？